森林総合教育センター（愛称：morinos）
基本方針概略版

“ぎふ木育”　ひろがりは 無限大 ～ ∞ ～

暮らしからのアプローチ

ぎふ木遊館

森からのアプローチ

森林総合教育センター（愛称：morinos）

Step 6（成人期）
伝える

Step 5 （高校大学期）
参加・行動

Step 4（中学校期）
考え・判断する

Step 3 （小学中～高学年期）
調べ・行動する

Step 2 （小学低学年期）
関心を持つ・気づく

Step 1 （乳幼児期）
ふれあう・楽しむ

体験プログラムの開発・実施【全世代共通】

木育ひろば
木育教室

指導者育成【2施設共通】

森林体験

森のようちえん

体験プログラムの開発・実施【全世代共通】

森林総合教育センター（愛称：morinos）について　全体像

森林文化アカデミー　（学長　涌井史郎）

現状

- **専修教育部門**：クリエーター科、エンジニア科
- **生涯教育部門**：一般県民向け
- **専門技術者教育部門**：林業技術者、木造建築技術者向け

移設＋拡充

新　**H31設立**

森林総合教育センター（愛称：morinos）（岐阜県版ハウス・デス・バルデス）

○日本初の森林教育（ぎふ木育）に関する総合教育施設

（目的）　100年先の森づくりを見据え森林に対して責任ある行動ができる人づくりを目指し、幼児から大人まで幅広い世代が自然を理解し、活用すること（ぎふ木育）を浸透させるための実践教育・研究施設。日本の森林教育のリーダー的人材を育成・輩出。

（内容）

「ぎふ木育」の推進　※木遊館と連携
○情報発信と交流機能
○プログラム開発・実践
○指導者の育成機能

民間企業・団体

- 委託
- 寄付
- 連携実施

＊民間団体や企業と積極的に連携
＊モデル化して各地域に展開

◇スタッフ　センター長、ディレクター（2名）、事務員（2名）、専門職（1名）を想定
ノウハウのあるNPO等　常駐を想定

◇スケジュール　H29～H30：開設準備、基礎プログラム開発　H31：設立、試行　H32：センター開所

新　**R２オープン**

森林文化アカデミー内にセンターハウスを建設　**展示・作業場等の施設は学びの場として自主建設**

構造：木造・平屋建て（約130m2）　**スケジュール**：H30設計、H31造成・建設

連携・誘導

新　**R２オープン**

木遊館

（位置付け）ぎふ木育の総合拠点施設
（都市部における森林教育のゲートウエイの機能を果たす施設）

連携

連携・誘導

○環境保全モデル林
　美濃市古城山等（県下5ヶ所）
○緑と水の子ども会議、木育教室
　県下の約120校・園／毎年が実施
○常設版木育ひろば、市町村が実施する木育イベント、森のようちえん等

1　背景・課題と目的

背景・現状

○ 林業に利用されない地域の里山など身近な森林が放置されている
○ 県民、とくに子どもが森林と接する機会が少なくなっている
○ 県民の森林や林業への関心が低下している。
○ 林業技術者など山で働く人が減少している
○ 森林を活用した子育てや教育への関心が高まってきている

課題

○ 県民に対して、森林での楽しみ方を伝えるなど、森林や林業について学習する場や機会の提供が必要
○ 子ども達や社会が抱える多くの問題（人格の形成・ストレス等）を、森林を活用して改善するための効果的な手法を確立することが必要
○ 森林での活動を通じて、森林への関心や森林・林業への理解を高めることができる指導者が少ないので計画的な養成が必要

必要な対策

●人と森とのつながりをつくるとともに、森林の楽しみ方、森林や林業への理解を高める場や情報を提供する
●子どもたちの人格形成や大人も含めたストレス軽減など、森林を活用した効果的なプログラムを開発する
●森林を活用した様々なプログラムを実践できる指導者の育成やスキルアップ研修等を行う

森林総合教育センターのコンセプト

すべての人と森をつなぎ、
森と暮らす楽しさと森林文化の豊かさを
次世代に伝えていく

2　森林総合教育センター(愛称:morinos)の姿

行政だからこそ
できること・やるべきこと

すべての年齢層・立場の人を対象に。特に民間ではカバーできない層や社会的必要性のある層を重点的に実施する。

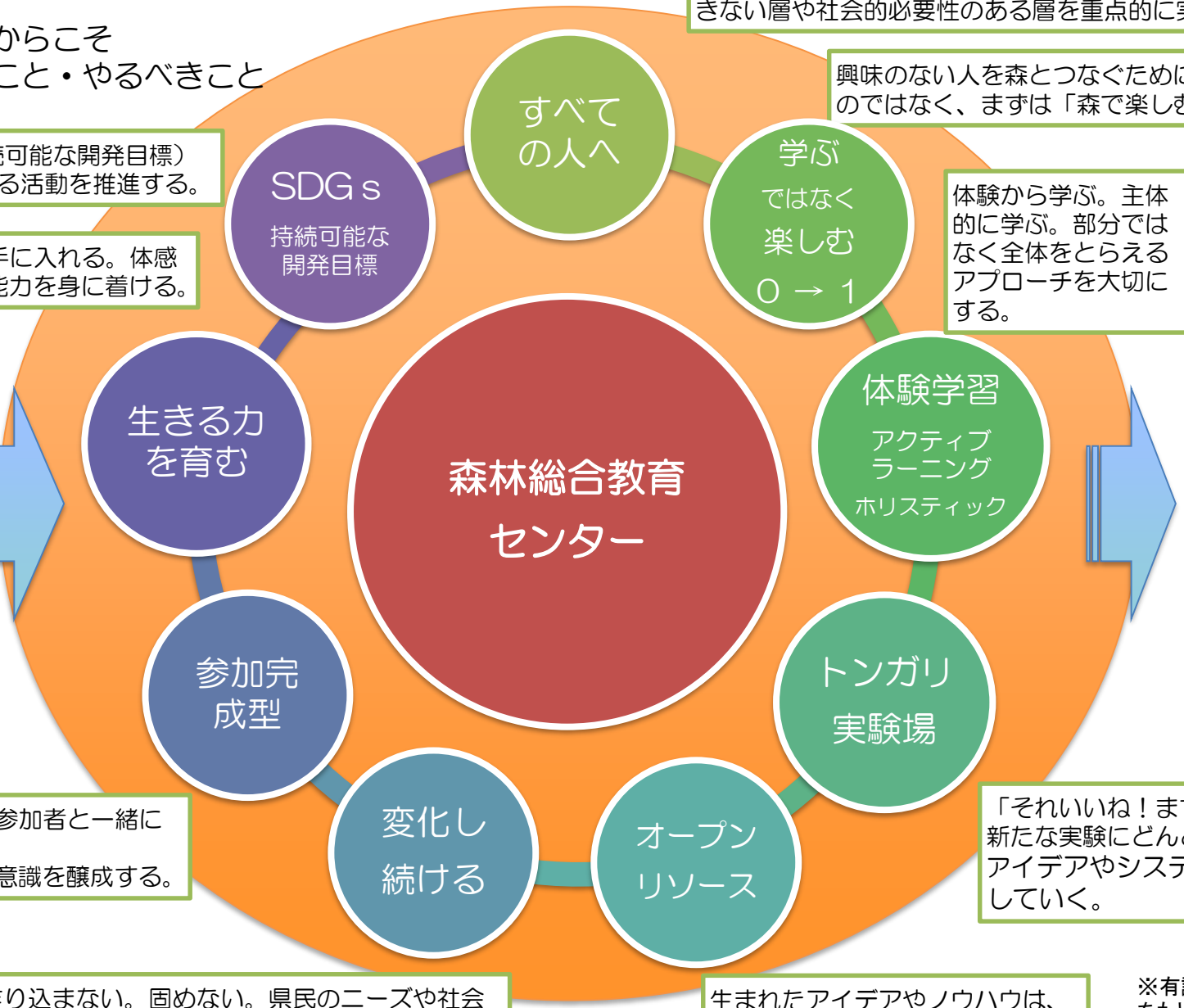
興味のない人を森とつなぐために、「森を教える」のではなく、まずは「森で楽しむ・親しむ」から。

SDGｓ（持続可能な開発目標）の達成に資する活動を推進する。

自立でき、生きる力を手に入れる。体感的な危険を予知できる能力を身に着ける。

体験から学ぶ。主体的に学ぶ。部分ではなく全体をとらえるアプローチを大切にする。

ぎふ木育30年ビジョンの推進



国版森林環境税の創設を背景とした市町村による森林教育の推進

プログラムも空間も参加者と一緒に創り上げる。
「自分たちの空間」意識を醸成する。

「それいいね！まずはやってみよう」新たな実験にどんどんチャレンジ。アイデアやシステムを次々と生み出していく。

作り込まない。固めない。県民のニーズや社会状況、「今ここ」を見ながら臨機応変に変化していく。

生まれたアイデアやノウハウは、公開可能なものについては無償で提供。

※有識者への聞き取り等をもとに作成

３　森林総合教育センターの機能
（行政が担うべき役割）

ぎふ木育の推進

（1）情報提供と空間提供機能

全ての県民とつながる情報提供
県民が気軽に立ち寄れる空間の提供
全国の自然教育・自然体験に関する情報の収集

（2）プログラム実験・開発・実践機能

民間では困難なプログラムの実験・開発・実践
国内外の有識者を招へいしての効果的なプログラムの開発・実践
完成したプログラムを民間に提供するシンクタンク機能

（3）指導者・民間団体の育成機能

現在の指導者のレベルアップ
新たな指導者の育成
民間団体と連携したプログラムの実践を通じた団体の育成
県内各地で質の高い森林教育を受けられるネットワーク構築

※ぎふ木育：岐阜県の豊かな自然を背景とした「森と木からの学び」を『ぎふ木育』と称する。
子どもをはじめとする全ての県民が本県の森林（自然）に誇りと愛着をもち、森林に対して
責任ある行動をとることができる人づくりを目指す。
「自然体験活動」、「林業」、「木造建築」など、森や木とつながる活動を通じた学びを含むもの。

３（１） 情報提供と空間提供機能

全ての県民とつながる情報提供
県民が気軽に立ち寄れる空間の提供
全国の自然教育・自然体験に関する情報の収集

▸不特定多数の県民へ発信
▸広報・交流
・ネットワークの入り口

【森林総合教育センター
木造平屋建て　約129m2】

□情報を発信する・つながる・収集する
・メディア等の利用・・・WEB、機関誌
・イベントの開催・・・フォーラム、
森林教育の見本市
・全国の先進事例等の情報を積極的に収集

【森林教育の見本市（森のマルシェ）
イメージ】

□県民が気軽に立ち寄れる　興味を持てる
・センターハウス・・・展示解説、図書館、カフェ
・演習林の活用・・・森のトレイル、
森を知る体験型野外展示

▸「面白そう」「開放的」「ここに来れば何かある、誰かに会える」 大人から子どもまで、そんな気分で気軽に立ち寄れる心地よい「森の入り口」

【切株によりその年代を知る体験型野外
展示（ドイツ ・ハウスデスバルデス）】

３（２） プログラム実験・開発・実践機能

民間では困難なプログラムの開発・実践
国内外の有識者を招へいしての効果的なプログラムの開発・実践
完成したプログラムを民間に提供するシンクタンク機能

□プログラムの実験・開発・実践

〇教育現場・企業へ
・幼稚園、保育園～小学校
・中学校・高校、大学
・特別支援学校
・企業研修　　等
〇イベント型
・森林教育交流フォーラム　等
〇募集型
・小中学生キャンプ
・森の幼稚園
・大人のための森遊び　等
〇貸出キット

・各学校、企業等との連携により実施
・対象団体からのニーズを把握し、実施
・アカデミー4分野（林業・森林環境教育・木造建築・木工）のほか、暮らし、健康など全体的に森をとらえ体験から生まれる「気づき」を応援
・継続的で、より深く

・より広い県民に伝えるため、
一般に募集する
イベント的に実施
貸出キットの開発

□一般化・公開・普及

・サテライト、県内への普及

【森林での楽しさを知る体験を継続的に実施イメージ】

【森林の中で企業研修を実施（チームビルディング等）イメージ】

３（３）指導者・民間団体の育成機能

現在の指導者のレベルアップ
新たな指導者の育成
民間団体と連携したプログラムの実践を通じた団体の育成
県内各地で質の高い森林教育を受けられるネットワーク構築

□スキルアップ研修

・現場指導者、新たな指導者、活動者向け
・教育力、指導力、技術力の向上

□民間団体の育成

・センターで開発したプログラムの提供
・センターと教育現場・企業との連携プログラムの実践を通じた育成

□ネットワーク構築

・センターと民間団体が協力し、県内各地で質の高い森林教育を受けられる仕組みづくり

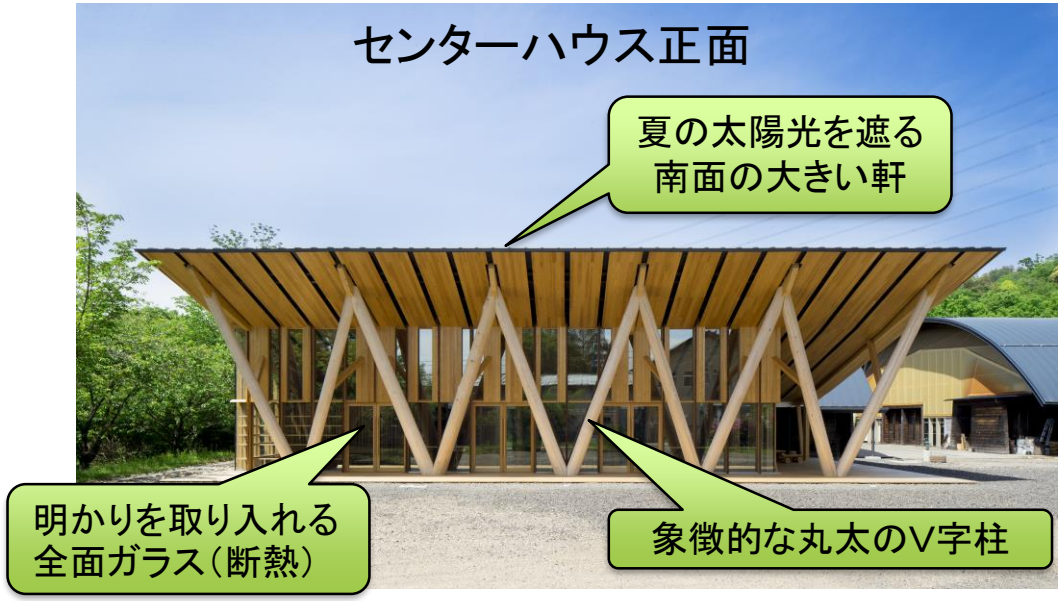
【指導者の育成の実施
（教育力、指導力、技術力）　イメージ】

【指導者の育成を実施（救急救命）イメージ】

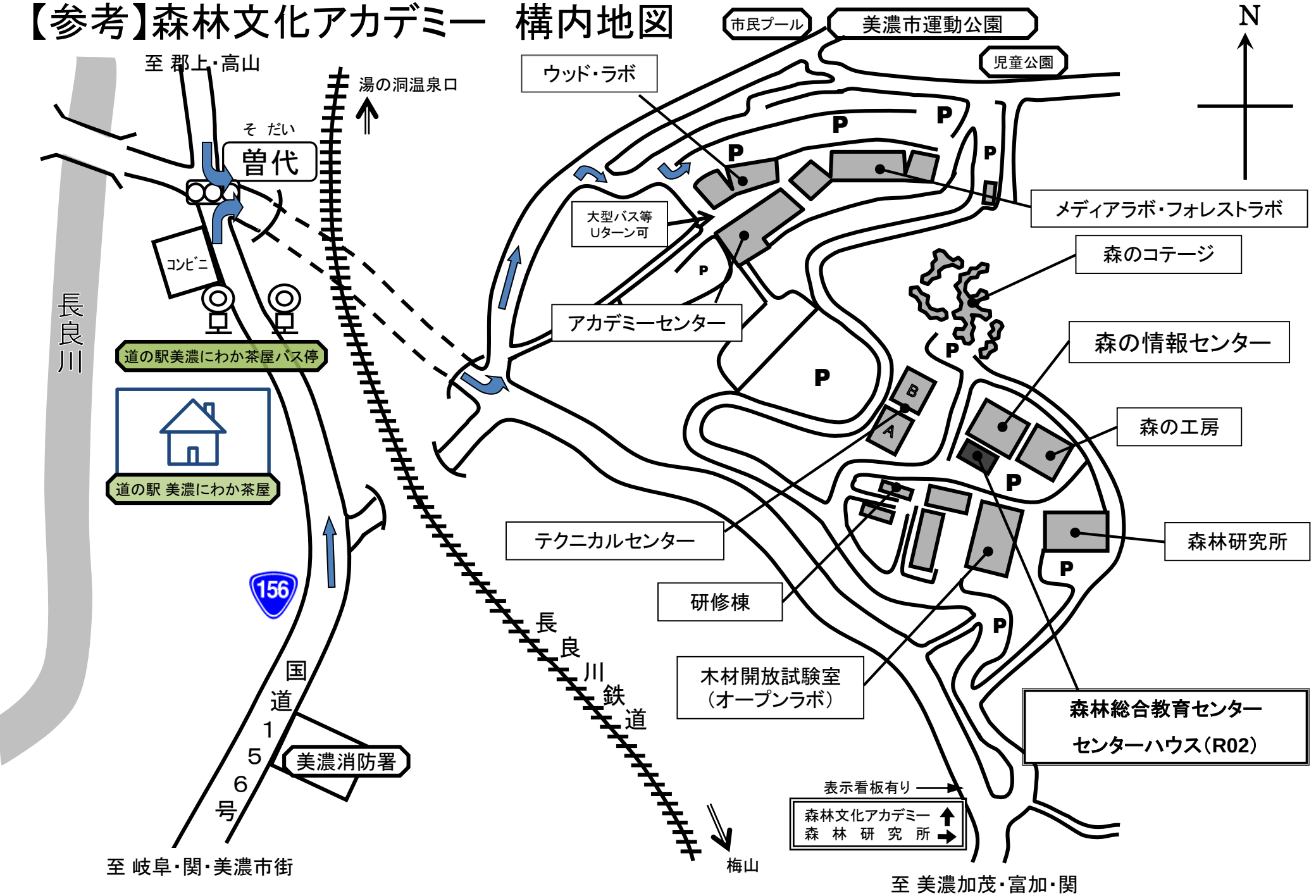
・幅広く、全体的な視点や技術を身に着けるための研修を実施
・森、教育、木工、森林文化、コミュニケーション、アウトドアスキル、自然科学、など　全体的・総合的な引き出しの増加
・教育関係の指導者には、森林・林業のスキルを、森林・林業関係の指導者には、教育のスキルを重視した研修の実施

4　センターハウス

○森林総合教育センターのシンボルとして、毎日人が訪れる「森の入り口」となる施設
○森林文化アカデミー学生が、建築家隈研吾氏の指導を受けて基本設計を作成



【参考】森林文化アカデミー　構内地図



【参考】森林文化アカデミー　演習林

アカデミーには、後者に隣接する33haの演習林があり、授業での実習及び様々な研修や生涯学習等において活用している。
森林総合教育センターにおいても演習林を活用し、効果の高いプログラムを実施していく。

N